

平成26年度 第1回 伊豆市地域公共交通会議

伊豆市総務部地域づくり課 平成26年11月17日(月)

1. 伊豆市における公共交通の現状

市の概要

合併日	平成16年4月1日 (旧修善寺町、旧土肥町、旧天城湯ヶ島町、旧中伊豆町)
面積	363.97km ² (県下5位/35)
世帯数	13,459 世帯
総人口	33,044 人 (男 15,809人・女 17,235人)



(平成26年11月1日現在)

自動車保有台数等

自動車保有台数 (平成26年4月1日現在)	28,980台 (うち乗用車18,486台)
車両1台あたりの人口(人) (平成26年4月1日現在)	1.11人 (県下7位/35)

1. 伊豆市における公共交通の現状

(1) 鉄道

三島駅から修善寺駅に向けて伊豆箱根鉄道駿豆線が運行しており、「牧之郷駅」と「修善寺駅」の2つの駅が存在。

・伊豆箱根鉄道 乗降車数 (単位：人)

	修善寺駅		牧之郷駅	
	乗車人員	降車人員	乗車人員	降車人員
平成23年	905,022	970,153	86,754	81,597
平成24年	896,968	998,176	90,599	82,311
平成25年	886,191	983,439	91,253	85,071

(2) バス路線 別添 路線図【資料3】及び伊豆地域公共交通路線図 参照

修善寺駅は鉄道のない伊豆半島地域へのターミナル駅となっており、駅前には近隣市町及び半島各地へ向かうバス路線が集まっている。

東海バス 市内 25路線 うち 自主運行バス 17路線
伊豆箱根バス 市内 4路線 うち 県過疎バス路線 2路線
うち 国庫補助路線 1路線

1. 伊豆市における公共交通の現状

自主運行バス 17路線 一覧

H26実施

系統番号	系統名 (路線名)	運行系統			系統 キロ程 (km)	運行 回数 (回/日)	運行時間帯 (修善寺駅発)	平均乗車 密度(人)	平成26年度 年間経常損益 見込額(円)
		起 点	経過地	終 点					
1	修善寺・桐山線	修善寺駅	本立野	桐山	16.9	5.5	6:20 ~ 19:00	2.9	-5,322,597
2	修善寺・持越温泉線	修善寺駅	本立野	持越温泉	19.5	1.5	17:40	4.1	-1,854,843
3	修善寺・持越温泉線	修善寺駅	吉奈温泉	持越温泉	21.7	1.0	15:30	5.4	90,929
4	修善寺・湯ヶ島温泉線	修善寺駅	本立野	湯ヶ島温泉	14.7	4.5	7:15 ~ 18:30	2.2	-6,984,499
5	修善寺・湯ヶ島温泉線	修善寺駅	吉奈温泉	湯ヶ島温泉	16.9	1.0	12:45	4.2	-397,376
6	修善寺・柿木大野線	修善寺駅	下柿木	柿木大野	11.8	1.8	15:45 ~ 18:10	1.0	-3,624,852
7	柿木循環	修善寺駅	柿木循環	修善寺駅	17.1	2.0	7:35 ~ 13:25	0.9	-2,881,725
8	天城小・長野線	天城小学校	田沢	長野	8.0	0.8	14:55 ~ 15:55	5.8	559,058
9	修善寺・上大沢線	修善寺駅	牧之郷	上大沢	9.8	2.4	5:55 ~ 16:00	1.6	-3,094,861
10	修善寺・湯舟口線	修善寺駅	小山	湯舟口	4.4	2.0	6:17 ~ 18:38	3.6	-579,038
11	修善寺・湯舟口線	修善寺駅	寺山口	湯舟口	4.6	2.0	6:34 ~ 18:55	3.7	-76,776
12	修善寺・競輪学校	修善寺駅		競輪学校	6.7	0.6	6:55	2.1	-296,139
13	修善寺・下尾野口線	修善寺駅	冷川	下尾野口	10.4	3.8	10:15 ~ 19:15	2.7	-4,292,969
14	下尾野口・修善寺線	下尾野口	中伊豆温泉病院	修善寺駅	14.0	0.8	7:23 ~ 18:09	1.5	-1,437,540
15	下尾野口・沢口線	下尾野口	冷川	沢口	6.8	1.3	14:54 ~ 15:46	0.2	-1,673,028
16	修善寺・伊東線	修善寺駅	冷川峠	伊東駅	13.4	6.0	7:00 ~ 18:30	2.9	-10,297,185
17	修善寺・温泉病院線	修善寺駅		中伊豆温泉病院	5.6	7.6	8:03 ~ 17:10	2.1	-3,705,468
平均乗車密度 = 1キロ当りの平均乗車数								合計	-45,868,909

1. 伊豆市における公共交通の現状

自主運行バス 経常損益 推移

年度	利用者数(人)	経常収益(千円)	経常費用(千円)	経常損益(千円)	うち県補助金(千円)
21	258,029	63,250	113,084	-49,844	17,784
22	259,111	58,998	105,011	-46,012	15,457
23	292,183	62,529	105,206	-42,676	14,829
24	267,533	56,791	105,151	-48,360	17,102
25	323,779	61,635	108,593	-46,958	19,098 (見込額)

○ 市内補助対象路線の現状

現在、伊豆市で補助対象となっている路線は、住民の生活路線として重要なものであり、特に小学校、中学校、高等学校に通う児童・生徒にとって主要な交通手段となっている。また、通学だけでなく、高齢化が進む農村部においては、近隣商業地・病院等へ出掛けるための重要な交通手段となっている。

しかし、広い面積を有し各集落(洞)に道路が枝分かれしている伊豆市の地形は、路線等の合理化が難しく、経費が非常にかかるという問題を抱えているとともに、人口減少が進む我が市におけるバス会社の経営は思わしくなく、不採算路線となっている。

1. 伊豆市における公共交通の現状

県過疎バス路線（伊豆箱根バス 2 路線）

H26実施

系統名 (路線名)	運行系統			系統 キロ程 (km)	運行回数 (回/日)	運行時間帯	平均乗車 密度 (人)
	起 点	経過地	終 点				
中伊豆線	修善寺駅	姫の湯	筏場新田	12.7	1.5	6:30~16:45	1.9
中伊豆線	修善寺駅	上和田橋	入屋	4.9	2.2	7:25~17:05	1.5

○ 伊豆市路線バス維持費補助金額（県過疎バス対象路線） H25年度運行分

補助対象運行系統	補助対象区間の欠損額	市補助金額 (欠損額の2/3)	内県補助金
修善寺駅～姫之湯～筏場新田 【補助対象指定区間： 上和田橋～筏場新田間】	2,626,202円	1,750,000円	771,000円
修善寺駅～入屋 【補助対象指定区間： 上和田橋～入屋間】	983,090円	655,000円	327,000円
計	3,609,292円	2,405,000円	1,098,000円

1. 伊豆市における公共交通の現状

国庫補助路線（伊豆箱根バス 1 路線）

H26実施

系統名 (路線名)	運行系統			系統 キロ程 (km)	運行回数 (回/日)	運行時間帯	平均 乗車 密度
	起 点	経過地	終 点				
中伊豆線	修善寺駅	地蔵堂・貴僧坊	筏場	12.7	14.4	6:22~21:38	2.2

伊豆市生活交通確保対策費補助金（市単独補助路線）

運行区間	経常費用 (A)	経常収益 (B)	市補助金額 (A - B)
修善寺駅～貴僧坊～筏場新田	2,477,192円	2,145,022円	332,000円
筏場～筏場新田	79,109円	3,198円	75,000円
計	2,556,301円	2,148,220円	407,000円

千円未満切り捨て

(3) タクシー

- ・ 市内 タクシー事業者：4 社
伊豆箱根交通(株)、(株)寺山自動車、天城タクシー(株)、伊豆土肥交通(株)
- ・ 市内 福祉タクシー事業者：3 社
(有)ツアートハイム、(有)寄(やどろぎ)、(有)あいねっと

2. 伊豆市補助事業の内容

高齢者路線バス割引乗車証（いきいきパス）購入費補助事業 H24年度スタート

- ・ 目的：高齢者の生活圏の拡大、社会参加の促進及び福祉の増進
- ・ 事業内容：70歳以上（4月1日現在）の方を対象に、市内路線バスを1乗車100円でご利用いただける「いきいきパス」を販売
- ・ 販売価格：3ヶ月券...5,000円、6ヶ月券...9,000円、12ヶ月券...13,500円

実績

	延べ利用人数	補助金額
平成24年度	298人	2,462,500円
平成25年度	298人	2,594,500円

福祉タクシー等利用料金助成事業

- ・ 目的：障害者・高齢者の生活範囲の拡大と社会参加の促進を図る
- ・ 事業内容：対象者（高齢者については満80歳以上）にタクシー・バス共通の100円券 12,000円分を交付

実績

	対象者	交付者数	利用枚数	助成金額
平成24年度	83歳以上：2,131人	1,389人	132,022枚	13,202,200円
平成25年度	80歳以上：3,230人	2,186人	178,894枚	17,889,400円

2. 伊豆市補助事業の内容

通学費補助事業（小・中学生）

- ・ 目的：通学費負担の軽減及び義務教育の円滑な遂行を図る
- ・ 事業内容：通学距離が片道2 km以上の児童・生徒を対象に通学費を補助
- ・ 実績

年 度	区 分	申請者数	補助金支給額
平成23年度	小学校(9校)	418 人	16,867,180 円
	中学校(4校)	478 人	37,703,420 円
	合 計	896 人	54,570,600 円
平成24年度	小学校(9校)	421 人	16,104,195 円
	中学校(4校)	477 人	40,238,900 円
	合 計	898 人	56,343,095 円
平成25年度	小学校(7校)	503 人	24,109,630 円
	中学校(4校)	438 人	40,214,430 円
	合 計	941 人	64,324,060 円

2. 伊豆市補助事業の内容

伊豆市高校生バス通学補助事業（ H26年度よりスタート）

- ・ 目的：保護者の負担軽減及び路線バスの利用促進を図る
- ・ 補助対象者：伊豆市に住所を有し、高等学校等に在籍する生徒又はその保護者
- ・ 補助要件：市内の乗合バス事業者が発券する通学定期券で、生徒の居住地の最寄りのバス停から、生徒が通学する高等学校の最寄りのバス停（バスのみの使用に限る）、または駅までの区間において、実際利用する区間のもの。
- ・ 申請方法：市内5箇所のバス案内所で、学生証を提示したうえで、所定の申込用紙に記入。
その場で、補助金相当額を差し引いた金額で通学定期券を購入することができる。 市役所への提出書類なし
- ・ 補助金額：通学定期券の購入費用から片道200円の通学定期代相当額を差し引いた額の3分の2（100円未満の端数 切り捨て）
片道200円以下の区間の定期券は対象外

2. 伊豆市補助事業の内容

伊豆市高校生バス通学補助事業

実績

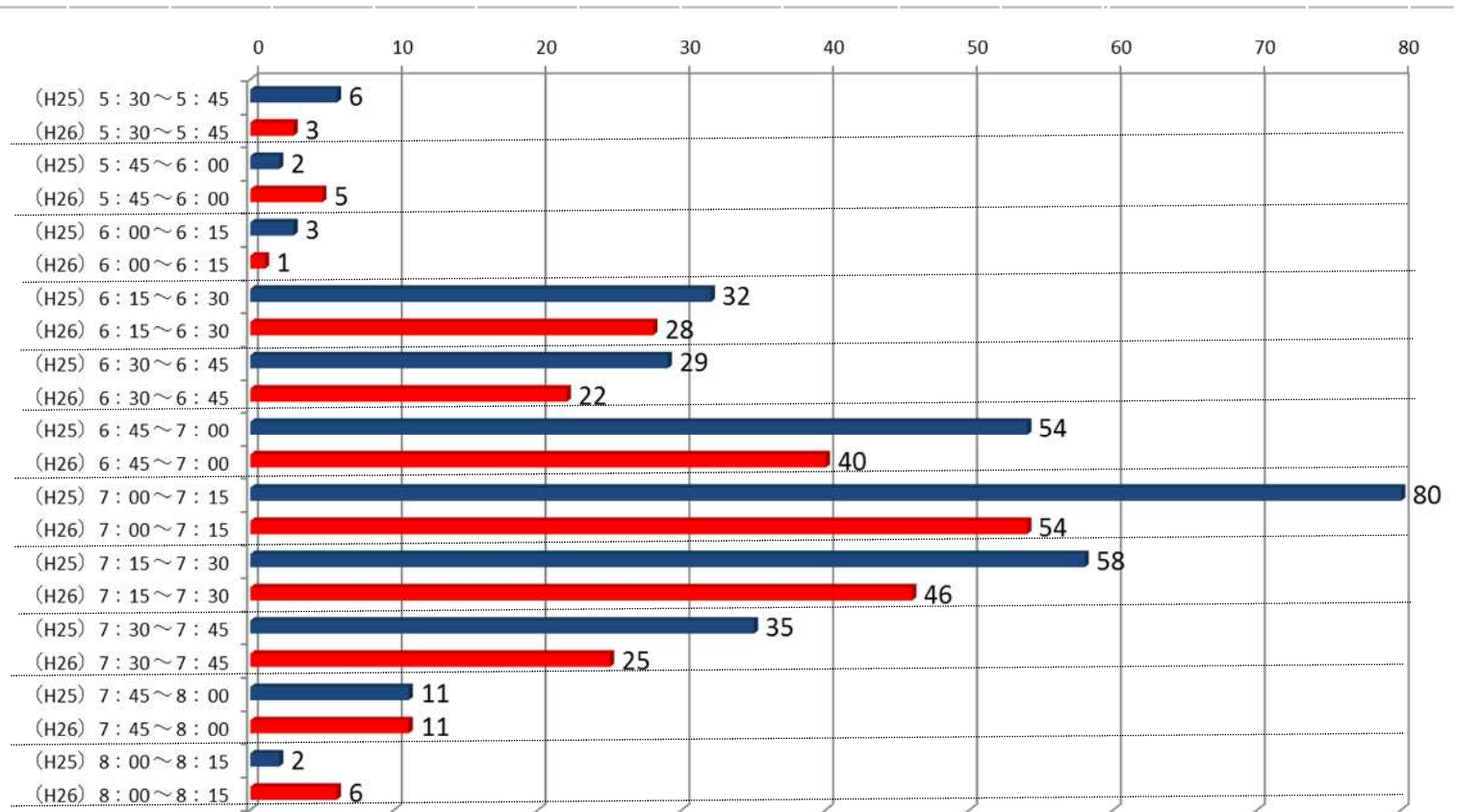
月	バス事業者名	人数	販売金額	補助金額
平成25年4月	東海バス	80 人	2,400,910 円	-
	伊豆箱根バス	13 人	243,610 円	-
	合 計	93 人	2,644,520 円	-
平成26年4月	東海バス	105 人	4,450,910 円	2,033,000 円
	伊豆箱根バス	23 人	538,800 円	170,000 円
	合 計	128 人	4,989,710 円	2,203,000 円
前年度比 (事業実施前後)		+ 35 人	+ 2,345,190 円	-

2. 伊豆市補助事業の内容

○ 修善寺駅前 家族等による送迎者数（高校生） バス通学補助事業実施前後の比較

■ …事業実施前(H25)
■ …事業実施後(H26)

時間	送迎による通学者数
(H25) 5:30～5:45	6
(H26) 5:30～5:45	3
(H25) 5:45～6:00	2
(H26) 5:45～6:00	5
(H25) 6:00～6:15	3
(H26) 6:00～6:15	1
(H25) 6:15～6:30	32
(H26) 6:15～6:30	28
(H25) 6:30～6:45	29
(H26) 6:30～6:45	22
(H25) 6:45～7:00	54
(H26) 6:45～7:00	40
(H25) 7:00～7:15	80
(H26) 7:00～7:15	54
(H25) 7:15～7:30	58
(H26) 7:15～7:30	46
(H25) 7:30～7:45	35
(H26) 7:30～7:45	25
(H25) 7:45～8:00	11
(H26) 7:45～8:00	11
(H25) 8:00～8:15	2
(H26) 8:00～8:15	6
(H25)合計	312
(H26)合計	241
事業実施前後比較	-71



2. 伊豆市補助事業の内容

21時台(修善寺駅発)の最終バスの運行を開始

生活スタイルの変化による夜間の路線バス運行の要望を受け、部活動・塾帰りの中高生や、仕事などで帰宅時間が遅くなった方をターゲットに、H26年4月より、修善寺駅発の21時台のバスの運行を開始

- ・土肥方面 21時05分 修善寺駅発 松崎行き(東海バス)
- ・中伊豆方面 21時08分 修善寺駅発 筏場行き(伊豆箱根バス)

1運行当たりの平均乗車人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
土肥方面 (東海バス)	5.8	7.9	8.3	7.6	10.1	8.1	8.0
中伊豆方面 (伊豆箱根バス)	3.1	4.7	5.2	5.5	2.8	4.9	3.9

3 . 来年度の路線バス系統について

自主運行バス 市内17系統 【東海バス】

9月末日 平成27年度 伊豆市自主運行事業申出書を提出

11月7日 静岡県生活交通確保対策協議会地区幹事会において、
申出路線の現況等の説明を行った。

自主運行バス路線については、住民の生活路線として欠かすことの出来ない重要な路線となっている。特に小・学・高校生の主要な通学手段であるとともに、高齢化が進む農村部においては近隣商業地・病院等へ出掛けるための交通手段となっている。

以上のような現状から来年度も今年度と同様に、17系統について運行を継続したい。（今年度と申し出路線の変更なし）

3．来年度の路線バス系統について

県過疎バス路線【伊豆箱根バス】

- ・ 修善寺駅～姫之湯～筏場新田
- ・ 修善寺駅～入屋

国庫補助路線【伊豆箱根バス】

- ・ 修善寺駅～地蔵堂・貴僧坊～筏場

- ・ とともに11月7日の静岡県生活交通確保対策協議会地区幹事会において単独継続困難の申出があった。

中伊豆線（上記3路線）については、中伊豆地域と修善寺駅間を結ぶ重要な路線となっており、沿線住民の通勤・通学等の日常生活における主要な交通手段となっているため、来年度も今年度と同様に運行を継続したい。（今年度と申し出路線の変更なし）

4. 「修善寺駅～戸田線」の「国庫・県補助(地域間幹線系統)」化について

申請理由

修善寺駅～戸田線については、過去の経過から、同じ区間(系統)を新東海バスの自社運行と沼津市自主運行バスによる運行が行われている。当該路線については、鉄道のない戸田地区と修善寺駅を結ぶ路線であり、戸田地区と修善寺駅間の利用が半数以上を占めている。

(H26調査 221人中、戸田峠を越えている人員127人(57.5%))

うち通勤7人 通学41人、通院等66人 観光利用13人)

戸田地区から修善寺地区間の利用で通院等が多くなっているが、これは高齢化率の高い同地区において、同路線が地域住民の足として利用されていることがわかる。また、1人平均乗車キロが14.6kmとなっており、このことから戸田峠を越える長距離利用が多いことがわかる。戸田からは土肥温泉あるいは井田方面へ乗り換えることもできることから、修善寺駅～戸田線については重要な幹線系統と位置付けられている。しかしながら、新東海バスの自社運行については、収支状況が芳しくなく、欠損の状況が続いていることから、沼津市自主運行バスとあわせ、国庫補助による支援をいただきたく、申請するものである。

H27年10月以降に地域間幹線系統(国・県補助)を適用する場合、H26年9月末までに東海自動車静岡県生活交通確保対策協議会に対し、「単独継続困難(国庫補助分)H28.29.30年分」の申し出を提出することが必要。 【提出済】

その上で、伊豆市と沼津市の地域公共交通会議において、本系統を国庫補助とすることについて議題として諮り、承認を受けることが必要となる。

4 . 「修善寺駅～戸田線」の「国庫・県補助(地域間幹線系統)」化について

【「修善寺～戸田線」国庫補助化に伴う伊豆市における注意点等】

「地域間幹線系統」の対象となった系統に、接続する別系統で一定の要件を満たすものについては、自主運行バス・事業者バスともに「地域内フィーダー系統」として、国庫補助の対象となることから、一部の系統については、既存の系統を再編して、県「自主運行バス補助」の対象から国庫「フィーダー系統補助」への切り替えとなる可能性がありうる。

(国庫フィーダー系統の要件を満たす系統は、県補助自主運行バスの補助対象外となる。)

伊豆市においては、今後、修善寺駅を起点とした現在の自主運行バス系統について系統の見直しを行う場合、異なる区間のキロ程が当該既存系統の20%を超える場合又は3km以上の場合には自主運行バスの補助対象外となり、国庫フィーダー系統の補助対象となる。

また、修善寺駅を起点として新規の路線を設定する際にも、自主運行バスではなく、国庫フィーダー系統の補助対象となる。

なお、国庫補助フィーダー系統の申請については、バス事業者ではなく、市が申請することになっており、申請に要する期間が長いため、早い段階での運輸支局への相談及び準備が必要となる。